

組合だより

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyone.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyone.jp

特集号

2月14日
2006年

発行所

岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市津島中2-1-1
電話 086-252-1111(代)
(内線) 7168
直通・FAX 086-252-4148

学長と岡大職組役員との懇談会

千葉新学長、抱負を語る

【出席者】

(大学) 千葉喬三学長

(組合) 吉田裕一委員長(農学部)、荻野勝書記長(環境理工学部)、神原精副委員長(工学部)、

中富公一副委員長(法学部)、宮本千枝子書記

【日時】 2005年8月5日

【場所】 学長室

学長選挙立候補への経緯

【中富】 まず、学長選挙への立候補を決意された経緯について簡単に話していただけだと思います。

【学長】 昨年末くらいまでは立候補についてはまったく考えてはいなかったのですが、一つは、河野先生から声をかけられて立候補を促されたこと、もう一つは、私がこれまで岡山大学の法人化準備に携わってきた経緯もあり、直前でほとんど準備もない状態でしたが立候補を決意するにいたった次第です。

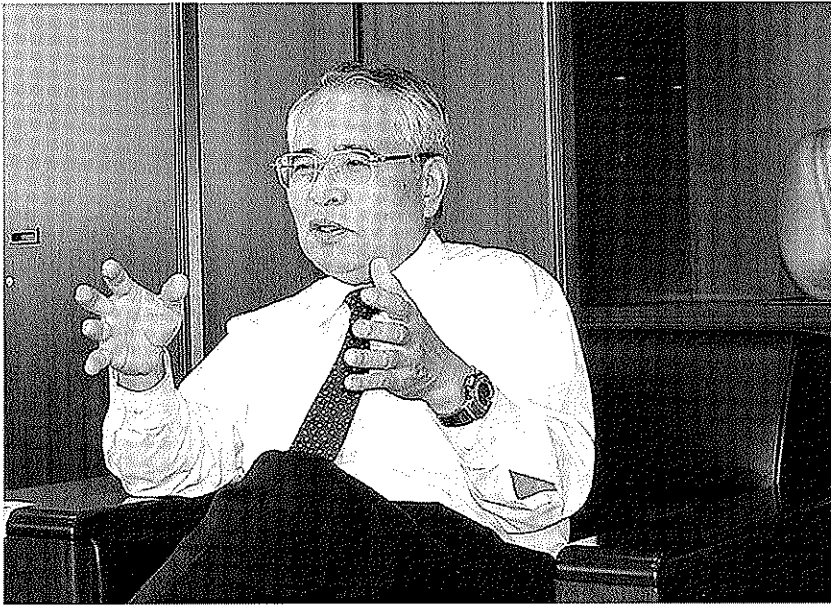
学長候補者と語る会 Ⅱ 立会演説会について

【中富】 荻野さん、学長選について何かいいですか。

【荻野】 学長候補者と語る会ではいろいろお世話になりありがとうございます。ありがとうございました。

【学長】 いえ、こちらこそ。それこそばたばたで、僕もほとんど準備できてないところでやりましたから。

【荻野】 いや、本当にお忙しい中来ていただいたありがとうございます。そこで、組合主催で立会演説会を、学長候補者と語る会という名で開催しましたが、こうした会の意義を含めて、今回の学長選挙制度についてのお考えをお聞かせください。



千葉学長

【学長】立会演説会についてですが、組合から申し入れがあつて出てしゃべつてくれと言われているというこゝとを河野学長に伝えました。河野学長はそんな話は聞いてないと言われ、非常に不快感を示されまして、大学としては許すわけにはいかないから止めるって言われたんです。それで、止めるというところまでは考え直された方がいいんじゃないか、説明をきちつと聞かれた方がいいですよというお話をしたんですね。多分、それで何か話が組合のほうにいったと思うんですけれど。

【中富】ええ、私がお話を承りました。

【学長】僕はそれは選考会議の方に問題があつたと思つていますが、学長は、選考会議で立会演説会をしないと決めているのに何かかわらぬさういうことをやつたといふのは非常にけしからんと言われる。それは、確かにプロセスとし



てはそうなんではしょうけれども、やっぱり誰が学長になるかというのは大学の先生方や職員にとっては非常に大きな関心事なわけで、その人物像なり考え方というのはどこかで、紙面だけじゃなくてやつぱりきちつと公の形で表明されているというのが、すべての前提になるはずで、選考会議がそういうことに思いをいたさなかつたというのはこれはやはり問題だと、私は今でも思つています。ただ、いろいろあつて、そのときに来ない人はどうするんだとかいう話が出てくる。しかしそれは、正式手続として選考会議がそういうものをセツトして、その上で最終的には選考会議が決めればいいわけで、そういうあり方が今後のあるべき姿だとは思つています。

意向投票と学長選考 会議の関係について

【中富】私は憲法をやっているんですけど、さつきばたばたで学長になつたというふうにおつしやつたんですけれど、やつぱり選挙戦を戦つていの中で勉強されて学長としての意識を育てられるだろうし、対立候補者と討議をするとかを経ることで候補者が学長として成長されていくんじゃないかというふうに通うんですけれど。

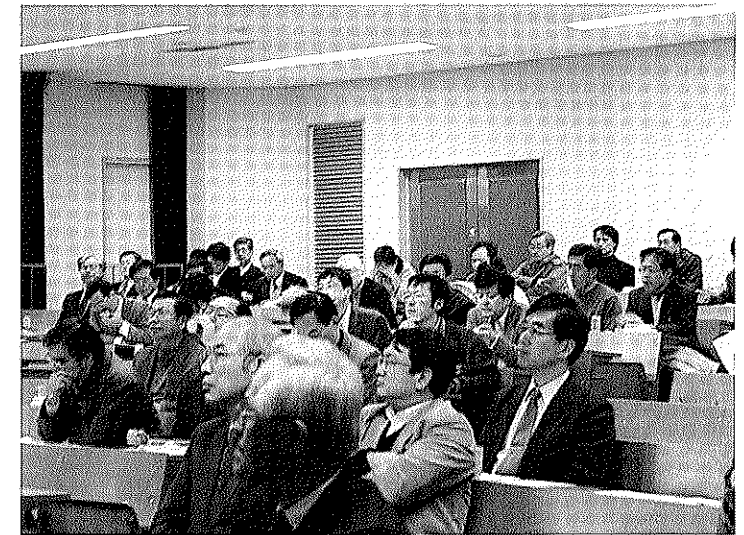
【学長】そこは必ずしもそうは思わないですけれど。確かに選挙だけと出せば、候補者といつてもあくまで候補者ですから、まだ勉強途中なわけですから、まだ勉強したらそれは勉強します。だけど選挙戦を通じてというよりは、やつぱり僕は選挙そのものでやるというか、公開での質疑をするとかをやらなきゃいけないか、どういう要求があるかということもわかりますし、勉強しますから、それは僕は絶対やるべきだとは思いますが、選挙をやるとその間成長していくというのは、それはちょっとどうなのかなあ、わかりませんね。

【中富】もちろん、公開での質疑というのが選挙の持つ大きな意味だと思つておられます。ただ、やつぱり選挙がなくて公開の質疑だけやつても何か勉強会やっているみたいで、や

つぱり緊張感からすると、選挙が絡む中で公開で質疑をしていくというのが学長を育てる場としては重要ではないかと思つたんですけれども。

【学長】そうですね。だから、選挙というのは多くの社会的な側面で使用されている方法ですし、私たちの考へついたシステムとしては今のところベストだろうとは思いますが、ただ、例えばある学部でやつたような、候補者一本化の選挙、あれも選挙なんです。そういう形で、選挙というのは全面的に使われるべきだということになって、その選挙そのものが本当に意味を持っているのかということになります。だから選挙の結果というのは絶対的な意味を持つということにはまだはいかないだろうと思つています。となると、一般の国政とかです。地方自治体の選挙の問題も多分にあるだろうとは思いますが、その辺はよくわかりません。大学の中の選挙で、教授会拘束をかけるというような話があるとしてありますね。選挙結果がすべてで、全大学の構成員を拘束するんだということまで結びつけるというのは、むしろ反発があるんじゃないかと思つています。それは、学部長を決めるんだつたら勝手にやつていただいたら結構ですけど。それは今でも残つてまして、今度新しく選考会議のメンバーで、学内の研究教育評議会の5名のうち、現評議会の

残任の方が2人おられますからで、あと3人が評議員の任期が切れてますから入れかえていただくよう、この間もお諮りしたんですが、うちの地域から1人出してくれという話をされる部長がおられるわけですね。そこにはまだ部局セクシヨナリズムというかそういうものが残っているわけです。そういうところの一番端的にあらわれたのが今回のことで、これはもう外部、民間の方も全部知ってるわけです。



な学長選考で外された……。【学長】それは、ちよつとわかりません。【神原】それはわからない。【学長】わかりません。それは、僕もその場にいません。【神原】そんな意見が出されたかっというの、僕は全く聞いてませんので。【神原】ああ、そうですか。

【神原】選考の役割に関しては、今まで歴史的にもそういう民主的な選挙でも悪い方向に向かった、衆愚政治的な方向に向かったというの。【神原】はい。【神原】選考の役割に関しては、今までは幾らでもありますが、それを危惧するということはわかるんですけど、ではそれにかわる、権威をもった正当な決定というものが本当にあるかどうかというのがちよつと疑問なんです。今回の学長選考委員会がそういう判断をされたということも、それはそれなりに見識があるんだらうと思うんですけど、やっぱりそれが制度として、選考委員会

【神原】ただ、大学の中のメンバーは、先ほど言われたようにやられていると思うんですけど、外の人を選ぶときに、我々外野から見ていると、学長が適当に頼まれているんじゃないかというふうにはやっぱり思っています。【神原】ああ、その辺のところを、本心に外からの人もそれなりの見識を持って権威があるんだということ、をみんなが認めるようにならないと、学長選考委員会は権威を持たないんですよ。【学長】学長選考委員会というより前に経営協議会のメンバーですね。【神原】そうですね。【学長】経営協議会のメンバーはどうしてなれるかというと、外部委員はもう文字どおり学長が、任命するつていいですか……。【神原】やっぱり、そうですね。【学長】それは、もうどの大学も

【神原】ああ、そうですね。【学長】はい。特に経済界の人たちは岡大のレベルの低さとして結びつけるぐらいの発言が出ています。要するに村選挙で田舎者丸出しだということ、いつまでたつても岡山大学は地方大学の域を出てない。そこそこがだめじゃないかと言われまして。【神原】その辺が、やっぱり最終的

【神原】選考の役割に関しては、今までは幾らでもありますが、それを危惧するということはわかるんですけど、ではそれにかわる、権威をもった正当な決定というものが本当にあるかどうかというのがちよつと疑問なんです。今回の学長選考委員会がそういう判断をされたということも、それはそれなりに見識があるんだらうと思うんですけど、やっぱりそれが制度として、選考委員会

【神原】選考の役割に関しては、今までは幾らでもありますが、それを危惧するということはわかるんですけど、ではそれにかわる、権威をもった正当な決定というものが本当にあるかどうかというのがちよつと疑問なんです。今回の学長選考委員会がそういう判断をされたということも、それはそれなりに見識があるんだらうと思うんですけど、やっぱりそれが制度として、選考委員会

【神原】選考の役割に関しては、今までは幾らでもありますが、それを危惧するということはわかるんですけど、ではそれにかわる、権威をもった正当な決定というものが本当にあるかどうかというのがちよつと疑問なんです。今回の学長選考委員会がそういう判断をされたということも、それはそれなりに見識があるんだらうと思うんですけど、やっぱりそれが制度として、選考委員会

学長選考過程における外部委員の役割について

そうでしょう。そうしろと書いてあるわけですから。自分で、私を入れてくださいと言ってくる人なんて、全国どこにもいませんから。結局、それは学長が学長の権限で任命しているわけですね。ただ、任命するに当たっては今回も何人か入れかわっているんですけど、やはりできるだけ各界の人から選ぶという心は心がけました。具体的なメンバーの名前を見ていただいても、大学の経営協議会とか、あるいは場合によっては学長選考会議に入る可能性はあるわけですが、そういうことが非常におかしいという人はいないと思うんですよ。

【神原】先生はそう思われるんですけど、我々の方は必ずしもそう見てないんですね。

【中富】それは、個人個人を見ればそうかもしれないんですが、例えばメルボルン大学なんかは州立大学ですけど、議会から政治家が2名、学生



吉田委員長

代表1名、それから同窓会から代表1名、お金をたくさん寄附してる理事から1名とか、何かそういう構成があるんですよ。そこら辺を、もう少し制度的に設計していく必要もあるかなというふうには思うんですけどね。

【学長】それはもしやるとすれば、大学内の申し合わせとか内規みたいなものでやることになって、そういう選出母体といいますが、属性を規定をしているものが今は何もないんです。

【神原】そうですね。

【学長】だから広く各界からと、今は法人化した大学では教育研究だけじゃなくて経営もありますし、そのほか大学そのものの存続に對して意見を言ってもらえる人とか、そういう意味でできるだけ広く、しかも経験があつて、各界でそれなりの役目を果たしてきた、あるいは果たしている人を選んでいくと、もうそれし

か言いようがないですね。

【神原】言いようがないんでしょうけれど、我々から見ると……。

【学長】どの大学の学長もそういう風だと思えますよ。

【神原】それはそうだとはいえますが。

【学長】むしろ、どっちかというとな、法人化に当たって各大学は、マスコミも悪いんだけどできるだけのネームバリューのあるというか、社会受けするとい

いますか、新聞ネタになりそうな人を選ぶ競争がありましたよね。それはもうかなり熾烈で、ちよつと有名な人というか、いわば全国級の人を何人入れているかというのは、マスコミが、また本省自体もすごくチェックしてたようです。どこの大学がどんな人を入れたかというのは、要するに仲間打ちで、地方の名士みたいな人とか学長の周りのものだけを集めたとか、そういうことになってないかという意味で、そのことを新



荻野書記長

聞社なんかは拡大させて、全国規模の人物を何人入れているからこの大学の格付はどれだけか、そういうところまで疲弊してしまっているわけですね。そういう意味で岡山大学は非難もされなかつたし、特に褒められもしなかつたですけれど、ただ言われたのは小野さんという、もとの事務次官ですよ。彼が、何で岡山大学みたいな小さな大学に行つたんだと。東大とか、京大ぐらいに入るんだつたら、それは順当な人事だけと岡山大学はよくいい人を探つたという話になつていくわけですね。あのとき、河野学長が、小野さんに声をかけようと思うがどうだろうかと言われたので、もう遅いか、逆に全く誰も声をかけてないかどっちかですよ、と言つたら、その後者だつて、皆怖がつて声をかけなかつたということでした。

【神原】ああ、なるほどね。

【学長】 いや、いいよということでお話したらしくて、今回もまた続いてお話しできますかとお聞きしたら、いいですよと言われたんです。

【神原】 大学のことがある程度わかっている人ならいいんですけど、経営者としての経歴は赫々たるものがあるとしても全く大学の特性を理解しないような人、例えば社長を選ぶのに何で従業員の投票が必要なんだとか、そういうセンスで学長選挙を見るような人が入ってくると非常に危機感を持つわけですね。だから、その辺の見識なんです。

【学長】 そういうことを発言した人がいると言われてますけども、例えばそういう人がおられても、だから他に大学人が5人入ってるわけですよ。【神原】 ところが、東北かどこかはそれが通ってしまつて、結局選挙しないうですね。

【学長】 東北は違いますよね。

【神原】 だから、そういうように押し切られてしまうところもあるんですよ。

【学長】 僕は、東北大学も一つの選択として……。

【神原】 まあ非難はできないかもしれませんが……。

【学長】 それは、別に僕は非難するつもりはないんで、随分議論したよかったですし、学長に聞きましたけれど、それはそれで随分議論して、あらゆるケースも考えたと言われてましたし、

し、これがやっぱり東北大学の結論だったと思います。それを、むちゃをしたとかだめだとかというのはいや、よつと言えないと思うんですね。それは内部の人たちも入って随分議論しているわけですからね。岡山大学の場合も河野学長のときもそうでしたが、そういうことには随分気を遣いますし、私は今回の経営協議会のメンバーを選ぶに当たっては、やはり頼み得る日程だとかいろんな条件の中で、頼み得る範囲の中で一番いい人に来ていただけたと思つています。現に経営協議会の席でも、やっぱり



な、私たち自身も大学に対していろんな考え方を持っているのと同じで、彼らも大学については非常にそれなりの見解を持ってまして、だから大学をどうにかしようという変な意図で物を言っておられる人はなくて、やっぱり大学を、一つは岡山大学そのものをどうしよう、よくしようという話と、それから日本の社会における高等教育機関としての大学はこうあるべきだという、そういう発言がちゃんとありますから、それはそんなにずれた話が出ていたとは思わないですね。経営というものは、お金お金とお金ですべてをやるというぐあいには巷間言われていますが、そんなお話は一切ありませんし、大学は金で動くところじゃないということをお話していただければいいと思います。だから皆ちゃんとわかっています。だからできるかどうかわかりませんが、制度上そういうことはありませんし、

経営協議会の方たちにも何かの席に出していただいて、皆さんの前でいろんな話をしていたらいいと思います。そこまでお願いするのは酷かなとは思つてますが。

【中置】 また議論するときはお願いしたいのですが、経営協議会の話はよくわかりました。さつき選挙のことで、村選挙だつていう話で、以前に河野学長と話したときも、やっぱり自分で考えないで、ボスカ何かが言うと同じで、選挙場だつていう話でした。ただ、選挙場だつていう場合に、やっぱり我々は自由主義的な発想、つまり自分の頭で考えて自分で勉強して投票するということを考えます。そうすると、そこに合わないところもあるからだめだつていう議論と、だけどこの前の学長候補者と語る会に集まった100人余りの人たち、あの人たちはみんな自分の頭で考え投票できる人だというふうな思ったわけですけども、そういう意味で、どういふふうなそういう、選挙の実質ですね、自分の頭で考えながら、きちんと討議しながら学長を選んでいくという、こつちもやっぱりひとつ追及しては

学長選挙制度をめぐる諸問題

めぐる諸問題

【中置】 また議論するときはお願いしたいのですが、経営協議会の話はよくわかりました。さつき選挙のことで、村選挙だつていう話で、以前に河野学長と話したときも、やっぱり自分で考えないで、ボスカ何かが言うと同じで、選挙場だつていう話でした。ただ、選挙場だつていう場合に、やっぱり我々は自由主義的な発想、つまり自分の頭で考えて自分で勉強して投票するということを考えます。そうすると、そこに合わないところもあるからだめだつていう議論と、だけどこの前の学長候補者と語る会に集まった100人余りの人たち、あの人たちはみんな自分の頭で考え投票できる人だというふうな思ったわけですけども、そういう意味で、どういふふうなそういう、選挙の実質ですね、自分の頭で考えながら、きちんと討議しながら学長を選んでいくという、こつちもやっぱりひとつ追及しては

自分たちが村選挙ではないような仕組みをどうつくりながら、現行制度の下でも、我々の学長を自主的に選ぶという方法があるかということについては、もっと模索したいと思っ

【学長】選挙というのは先ほど言いましたように、人間が考えついたその集団の中の多分今のとこあれしかないだろうと思うルールですから、当然やってく下さい。ただ選挙そのものはそうですけど、選挙のプロセスというか、そこを間違えたら、選挙とはいっても結果っていうのは1つしかないわけですから、むしろ先生方の方に自立的な考え方をどうするかという、その辺はむしろこちらの方で考えていただいた方がいいでしょう。

【神原】それは、そうですね。

【学長】こんなことまで言ってしまうのはどうかとは思いますが、法人化に当たって、学長選考会議のようなものを、ほとんどもう大学に聞くことなく、ばあんと法律で作ってしまったというの、多分に選挙に対するむしろマイナスイメージが強かったからではないでしょうか。当たっているかどうかは別にして、社会的にそういう考え方の人が結構いたということは事実ですね。

【神原】事実でしょうね。

【学長】そのもとをつくったのはやっぱり大学が作っているわけで、何

もないところにむちゃくちゃな形で、選挙否定のような形で制度がつくられたとは思わないですね。やっぱり何がしか、選挙によっては今までの弊害と言われているものがあって、それが、正当にあつたか過大にあつたかは別ですが、それがなければ、こんなことはなかったでしょうね。

【神原】そりゃ、そうですね。

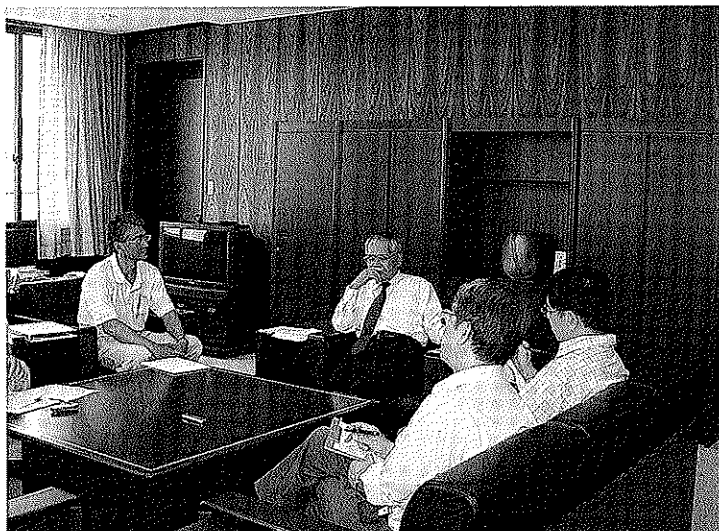
【学長】だからそこら辺の反省というのか、そういうところをうまくやりかえないと、下手すると、この法人化というのが幾らでも変えるといえますか、非常に可変な組織ですから、さらにもっともつと厳しいとい

いますか、いわゆる大学と
思えないような
形態の運営
を押しつけら
れていくとい
うことは、こ
れから先まだ
まだあり得る
と思っ
ていますよ。

【神原】あり
得えますね。

【学長】はい。

それは簡単な話で、お金を縛れば幾らでも縛れますから。金を縛っ



てしまえば、金の縛り方というのはもう幾らでも口実がありますから。だから、例えば評価というものは外部評価というのがありますよね、あれは2つの評価があるんですね。それ、認証評価というのと法人評価とあって、認証評価の方は教育研究機関としてちゃんとした機能を果たせるかどうかという、いわゆる資格審査みたいなもので、少なくとも国が設置して認めた旧国立大学は、マイナスをつけて落とすというようなことは自ら認可したものを否定するわけですから、そういう場合はないと思います。ただ、法人評価というの

は、これはまだ内容がいまだにはつきりしないんですけれど、これは物すごく危険だとか、注意しないとイケないんです。これは文科省ではなくて総務省、国がやるんです。小泉さんのような人たちが一言言うと、それで動くんですよ。そういうと

ところで、例えば学長選挙のやり方にしたって何にしたって全部その書類が上がっていくわけです。そのことについて、これは不適切だとか彼らが判断すればあり得るんですね。だからそういうことになったときに、岡山大学の意向調査というのは極めて妥当なプロセスを経ますよ、ということが言えないといけないわけですね。そうすると、本来は選考会議で決めることを、やらなくていいものを作ってそれに振り回された学長だという形の逆のはんこも押されかねないわけですよ。それもわかりませんよ。

【神原】うん、いやわかりません。

【学長】全くわからないけど、あの法人評価というのは、もうごくごく経済的、形式的にぱつとやるのか、あるいはその気になれば幾らでも大学の値踏みにも、あるいは将来の存続とかに利用できるような制度なんです。だから非常に怖いと思っ

5点満点の4点ですよとか、自分で点をつけたわけですが、そのことの妥当性を突いてきているわけです。でもあれは文科省の人がやっているからまだましなんです。文科省から依頼された委員会がやっていますから、外部の公認会計士などが来てますけどまあいけば仲間内の話なわけです。それでも、法人評価のところはね、もう何でもありませんですよ。法人として適切かどうか、あるいは設置に耐え得るものかということまでできるわけですね。それに関しては、私たちが統括している文科省というのは全く手が出せないですね。それは自分たちが認可しとるんだと弁護はするんですけどもね。そういうところで、やっぱりこういうこともあるってことは十分考えた上で、一方、大学として大学らしいやり方というものを、やっていかなくてもはいかんといい時代にきているということ、その辺は目配りとか、違う視線も知っておかないといけないと思うんです。

学長選挙制度の今後の課題

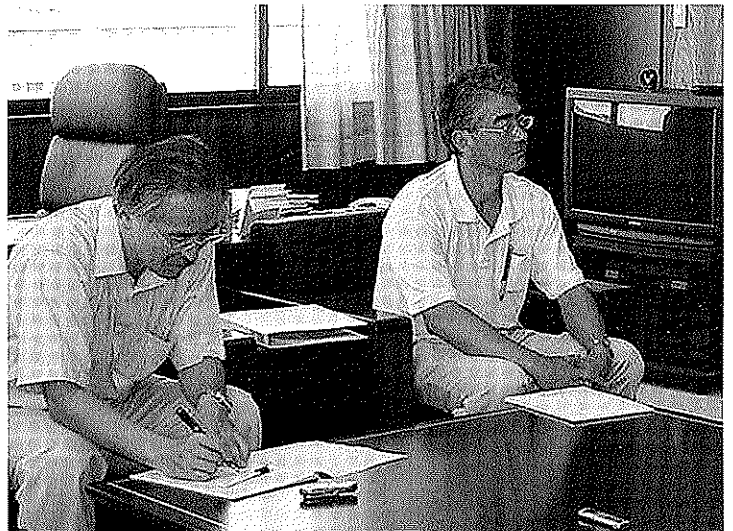
【中富】次の話題になっていますので、学長選について一言だけ言わせていただくと、意向投票をやつてその結果と違う結果が出るとすれば、やはりそこで説明責任があると思

ますが、そこから辺が非常にわかりにくかったというところで、そこはもう少し工夫していただきたいと思

【学長】それは、やはりやったことが決まらないうちに、これは組合としては少し言

【学長】それはおっしゃる通りで、今回の選挙も、先ほどちよつと言いましたけれど、初めてということもあつたんでしようけど選考会議で相当混乱がありました。私は先ほど話

【中富】次の話題になっていますので、学長選について一言だけ言わせていただくと、意向投票をやつてその結果と違う結果が出るとすれば、やはりそこで説明責任があると思



スムーズにいったとは思いませんね。外から見た分かりますと、確かに私もたまたま印象は否めな

【学長】それはおっしゃる通りで、今回の選挙も、先ほどちよつと言いましたけれど、初めてということもあつたんでしようけど選考会議で相当混乱がありました。私は先ほど話

【中富】次の話題になっていますので、学長選について一言だけ言わせていただくと、意向投票をやつてその結果と違う結果が出るとすれば、やはりそこで説明責任があると思

【神原】我々は、学長選考会議には、どういう形で意見が言えるんでしようか。前の、河野学長の時には、学

【神原】想定していませんね。【学長】そう。だから、そうは言つても河野前学長は、例えば経営協議会とか、そういう部局長が集まる席

【神原】それは、何も書いてないです。【学長】そこは、何も書いてないです。【神原】そう。

【神原】我々は、学長選考会議には、どういう形で意見が言えるんでしようか。前の、河野学長の時には、学

【神原】想定していませんね。【学長】そう。だから、そうは言つても河野前学長は、例えば経営協議会とか、そういう部局長が集まる席

【神原】それは、何も書いてないです。【学長】そこは、何も書いてないです。【神原】そう。

【神原】我々は、学長選考会議には、どういう形で意見が言えるんでしようか。前の、河野学長の時には、学

【榊原】 組合は岡田先生が総務担当ですか。

【学長】 岡田先生が総務担当ですから、彼が窓口ということに実態としてはなるでしょうね。議長を呼んできて聞くというわけにはちよつと、つながつてませんからね。

【榊原】 団体交渉の相手にもならないですしねえ。

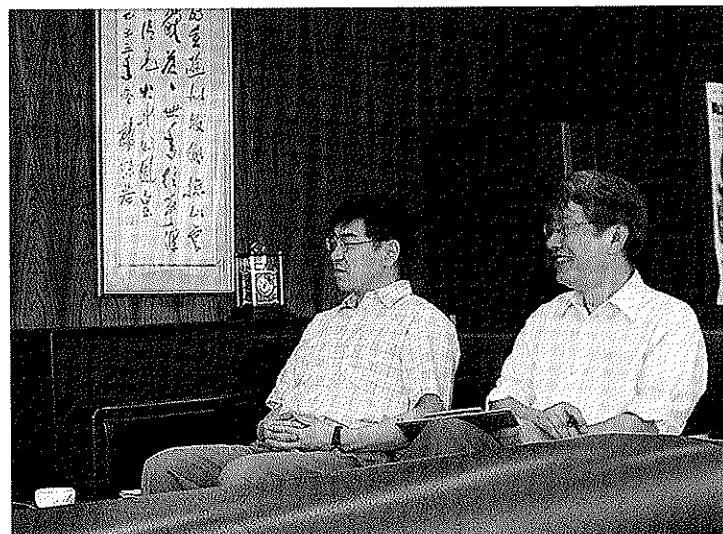
【学長】 そうですね。だから、総務担当の岡田先生を介して情報のやりとりということにならざるを得ないと思いますね。

学内の意思形成 手続について

【中富】 次の話題に行きたいんですが、今ちよつと出ましたように、トップダウンについてですが、河野先生はボトムアップが重要だと言っておられたのですが、やはりトップダウンだけで進めると、みんながやる気というか、なぜこういふことをやっているのかもよくわからないというのでは、なかなかやる気にならないということもありまして、大学の運営上、そこらへんが若干問題かなと思えます。全学会議へ行っても、何か指令を伝えられるだけで、いろいろ問題があるのに全然言えないとか、何かそういう不満もあつたりして、トップダウンについては、一般的にそういう危惧を感じるのですが。

【学長】 そう、そうですね。【中富】 そういうわけではないんですか。

【学長】 そんなことはないと思ひますけどね。例えば、全学的にかなり重要といえますか、レベルの上の話をおこなうにはよく研究教育評議会で議論をして決めてたんですが、それは今でも変わらず、重要な問題はそこで議論をして決めてきています。ですから、結論を出す必要はないといふことは、研究教育評議会の後に必ず2時間ほど時間をとつて部局連絡会というのを同じメンバーでやりますから、実際にはそこですらいろいろな情報を大学側も出しますし、部局の先生方のいろいろな意見を、それはもう何が出てくるかわからないような形で意見交換してきます。すると、やっぱり大学としてこれは制度化したほ



うがいいとか、決めないといけないことというのは、次の研究教育評議会なり、あるいは経営協議会なり、場合によっては役員会だけで決めるところは役員会でやって決めることになります。そこで物が決まらないとか、決めたことが有効性を持たないといふことがあるかも知れませんが、だから、そこでアイデアなり問題点はかなり出してもらつておいて、部局連絡会というその回路を我々のそういう制度設計のときに是非作りたいといふことで、僕はあそこをつくつたんですけれど、でも、そこには決定権を持たせられないのでそういうことにしてませんけれど、事実上は同じメンバーが、研究教育評議会と同じだけの回数、同じだけの時間をかけてやっています。それで、あそこが一つの情報の交換の場です。ボトムアップの一つの形ですね。それから、あとは例えば

入試だとか教育に関してのところは、できるだけ、昔の委員会組織をなくそうとしたんですけども、やっぱり部局の意見を聞かなければいけないところというのは、結局部局に出ていただいて、実態としてはほとんど昔と同じようにやっていると申すんです。何もかも昔と変わつて、全くトップダウンでということには余りなつてないと思ふんです。予算にしたつて皆部局の要求を出して上げてもらつてそれで割り振つていふという、これは前の予算委員会です。だから、そんなに変わらないで物物が動いているわけではないと思ひますけれど、やっぱり、大学といふのは一般の会社と自ずと違いますから、そんなことをやつたら大学そのものが動かなくなりますからね。ただ、できるだけ早くしないといふことは一々委員会にかけずに、こういうことをやつてくださういふ形で流れていくと思ひます。それは、決してトップダウンに流されていくということではなくて、効率よく物を決めようといふことです。例えばいろいろなことが競争型の話になつてまして、予算要求も全部競争型で、応募する形になつてます。もうとにかく1週間か10日で全部出さされるんです。これは、一つの向こうのやり方だと思ふんですが、要らんやつはもう初めからアウトだといふ、

多分にそういうことだと思えますけれど、それに間に合わせないといかんということで、スピードと効率を求められる。それに対しては、ボトムアップでは対応できないわけで、例えばどこを出しましょうとか、もうとにかく間に合わせて出してくださいということ、対応せざるを得ない。これは随分前と変わってきて、大学自体が本省からのトップダウンの、要するにしもべにされてしまっている、そのことを総務省は推奨しているわけですね。だから、とにかく国はそういう形に耐えうる者でなければ相手にしないということ、本省が言われているわけです。だけど、僕はすべてのことがトップダウンで、何もかもが意見を聞かずに動いているという具合には思いませんし、できるだけ聞こうと思っております。

学長としての抱負(1)

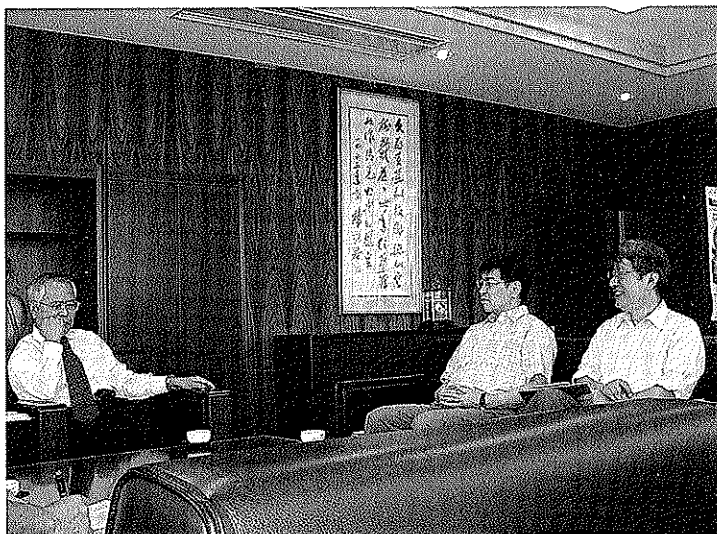
潜在能力の顕在化

【中富】大分遅れましたが、学長になつての抱負がありましたらお願いします。

【学長】抱負は、一言で言ってしまうと、これだけ潜在能力のある岡山大学、これをやっぱり何とか、少なくとも10番目の、予算規模がトップテンだったら、やっぱりそれに相当するだけの業績を出せるようにすることだと思っております。例えば、岡

山大学の予算規模は、旧国立大学の予算規模で言うとトップテンなんですよ。10番目なんです。これは、抱えている学生数とか、キャンパスのいろいろな建物、そういうものを積算して予算化してきますから、要は大学の規模の格付です。逆に言えば、10

番目に当る税金が投下されているということですよ。それは授業料も含んでますから税金だけではないんですよ。でもトップテンにいるんですよ。ではトップテンとしての、研究業績とか、教育成果はわからないんですけど、出てるかというところ、やっぱり出ないと思うんですよ。ね、残念ながら。広島、神戸もほぼ同格にいるんですが、予算からいうと、広島はうちのちよつと上で、神戸はちよつと下です。もうほとんど同じところに並んでいるわけですが、研究、いわゆるCOEの数とか、受験生の受験倍率、人気だとか、



そういうことからいうと、総体として、岡山大学は、実力といえますか、その格付だけの業績は出してないと、残念ながら認めざるを得ないと思いますね。ついでこの間朝日新聞から出た、受験担当の国語の先生から見た岡山大学の実力というのは圏外なん

ですよ。

【神原】何かねえ。

【学長】圏外なんです。で、何番だということをしつこく聞いたら全国で175番だということなんです。中国地方で20番だということなので2番じゃないのかと言ったら、いや20番だということです。これは何でなのか、それはイメージなんです。イメージと言いますが、やっぱり広島、神戸は高いんですね、残念ながら。これはやっぱりちよつと無視はできません。COEにしたって、やっぱり岡山大学ぐらいのところだったら、僕は2つといわず、少なく

とも4つはとっておかないといかんなど思っています。あれは、しかし中身とか力がなかったのではなくて作戦的に失敗している部分があります。だけれども、結果はそうですよね。

ただ、教育に関しては、僕は良い線いっていると思っております。昨日、現代GP、正式名称は「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」というのですが、それが通ったという内示をもらいましたし、その前は、特色GP、正式名称でいうと、「特色ある大学教育支援プログラム」となっています。去年もダブルで通っています。今年もダブルで通っています。ダブルで国立大学が取ったという事は、他ではないでしょうね。岡山大学は教育面では非常に評価されているということは、ほぼ言えるんじゃないかと思えます。ですからそれが世間の、例えば受験生のイメージとかになぜ反映していないのか。やっぱり、宣伝が下手なんじゃないかと思えます。大学が宣伝なんかする必要は全くないといえませんが、大学の格付になつてきますからそういう言われてられません。これだけの潜在力があるにもかかわらず、やっぱり何か大学の中に欠陥があるんだらうと思うと、それを引き出すようにしないといけない、強く思っていますね。

【中富】法学部で受験に関してベネッセに来てもらって勉強会をしたん

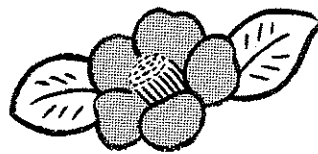
ですけれど、なぜ広島の法学部と比べてこつちが低いかというと、なんでも広島の方が名物教授を呼んだり、いろんな話題づくりをするのがうまいんだというようなことを、言っておられましたけど。

【学長】受験

生に關しては、かなりはつきりしているのは、やっぱり宣伝が大事なんですね。例えば、よその他府県に行つてやる説明会でも、岡大はせいぜい2回なんです、2件なんです。広島はもつと多いつていうんですね。もう、全然かけるエネルギーが違ってますね。だから、やっぱりその辺だなあと言わざるを得ないわけです。それが何でかと聞くと、そういうものの予算がないとかという答が返ってくるんですよ。たとえば予算をかけたつて受験生が増えればすぐ返ってくるわけで、そういう計算ができないのはちよつと情けない



と思いますよ。僕は予算というのは投資とリターンを同時に考えなければいけないと思います。そういうこととに岡山大学はまだ全然なれていないというか、金がないからやりませんとという、昔の予算で物を売っている発想が抜けていないんです。



学長としての抱負(2)

国大協改革

【神原】茶々を入れたら悪いんですけど、予算でも入試手当は半分削りましたよね。だから、その分、実際

の入試業務とか募集業務に使つてもらつたらいいと思うんですが。

【学長】今日も高校の先生の入試説明会が昼からあるんです。入試制度そのものが岡山大学だけでやれない構造になつていて、国が分離分割方式という大枠を決めているわけですから、国大協がそれを代行して決めて、押しつけているわけですね。

その枠の中でしか今のところ動けないというか、そのくせ何か多様化でAOをやれとかなんとかいろんなもの多様化を要求してきて、末端の大学は何か変えようと思つても変えられない。枠組みは変えられないのに多様化多様化ということいろいろなことをやって、しかもそうやってセンター入試の意義づけもあるし、あれをパスすることもできない。かといつてセンター入試だけでやろうとすると、いろんな不都合がある。

入試に關しては、どこの大学もみんな混乱していますけどね。特に、いわゆる地方大学は振り回されている。この間、辞命をもらつた翌日に国大協の会があつたので僕初めて出ましたが、京大が今、入試に關する国大協の委員長校なんです。ところが、入試制度はどうするんだという地方大学の説明にはほとんど京大は答えません。20年度も19年度と同じようにやつてくたさい、別に枠組みは変えませんと、いうわけです。それで、自分のところは後期はやら

んとか何とか言つてるでしょ。

【神原】そうですね。

【学長】そういうことをやるんだつたら、僕はもう国大協に入るのやめようかと手を挙げただけど当ててくれなくてね。そういう具合で、物すごくやりにくいんですよ。だから、その中で泳げと言われても、非常に小手先といつたら怒られるけども、大きなエントランスのところでも、大きなエンタランスのところでも、大学がどんなにいいことばかなかにやりたいということばかなかに許してもらえないですねえ。これは大変大きな問題だと思つてますけど、いつ大学、国公の大学はそれをやらせてくれるのかというのは、ちよつと岡大だけでは決められないといひますか、国が高校生とか社会のために、これだけの枠組みは動かさせませんよと決めてしまつていますからね。東大、京大は自分のところだけダァーっと全部やつてしまつて、あとの残つたものだけおまえら奪い合いをしろという。で、現に京大はやろうとしていますし、これからはもう全く弱肉強食じゃないけど、強いところがますます強くなつてくるという感じですね。

【神原】そういう傾向はありますね。

【学長】それはひとつありますね。だから、入試というのは一つの例ですけれど、多くのことが法人化したから独立化しているとはいつても、実際にはもういろんな形で縛つて動

かせないようにはしておいて、それではあとは自助努力をしなさいというのが法人の目的だろうと思わざるを得ないところがありますねえ。それほどの地方の大学の学長もみんな、もう死ねと言うのかって言ってますけどね。

それと、地域手当の話とか絡んできますと、これはもう本当に厳しいことにますます切り捨てというのか、大学の淘汰をやるうとしていっているのかと思わされます。人勧そのものを、全部大学にもそのままおろしてきたんですねえ。ちよっと予断を許さないんですけれど、岡山大学は地域都市手当が8%減ですからねえ。

【神原】今もらっている3%の都市手当がですか。

【学長】その3%の都市手当が0になつて、その上に5%を減額です。

【神原】5%減、プラスはゼロ。

【学長】プラスはゼロで減が8%に上がつてるでしょう。それがどこへ行くかといったら東京に行くわけですよ。

【中富】東京は18%の都市手当ですからね。

【学長】だから、もう強いところがあります強くなつていくという方向は明らかだと思えますよ。確かにわからないことはいくらでも、大学とは全然性格の違う民間の給料と比較するといふのも、どうかと思えますね。

【神原】しかし本当にちゃんとした

調査をやつてるんですかねえ。
【学長】僕は、全然わからないですね。

【中富】岡山は0%地域ですからね。
【学長】何で岡山がねえ。まず、そこからおかしい。全くわからないですね。

【中富】国大協ではどういうふうになつて……。

【学長】国大協の委員会構成について意見を書けということ、今日が締め切りなのでそれを書き上げているところですが、国大協にはいろいろな委員会があるんです。そもそも国大協というのは何をしているのかというと、法人化するときに、国大協をその後どうするかというあり方委員会があつたんですね。それは河野先生もたまたまその委員の一人だつたんですが、彼はほとんど出られなかつたので、代理で僕がずっと出てたんですよ。法人化という中身が変わるときに、国大協はいかに大学、特に地方大学をサポートしてくれる組織になり得るのか、何をやってくれるのか、です。多額の会費をとつて、結局大きな大学のトカゲのしっぽにされた下支えをするだけの、そんなものだつたらやる必要ないと僕がいふん言つたんです。そんなことにはないということ、東大と名古屋の学長にずいぶん反論されましたけど、今考えてもそう思ってるんです、入試がそうでしょう。もっと言

えば人事ですよ。文科省が動かししている人事は一種の天下りで、それはしないということになってるんですが、実態はまだまだ動いているわけですね。僕はそのかわるものとして、例えば国大協が人材を一括採用して、そこにプールされた人材を各大学が活用する、そういう受け皿に国大協がなることはできないかということは大分言つたんですけれど、結局、いい案ですねと言われただけで何にもしないですよ。では、国大協というのは何をするとところなのか。昔からそうなんですが、入試の取り決めるときでも本省の意向を踏まえて無理やり押し進めてきてこれです。

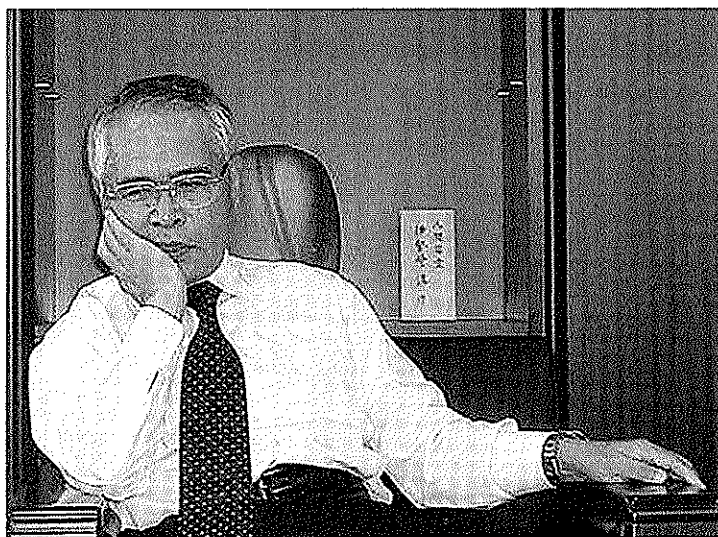
【中富】でやつていたこと、幹事校と称する旧帝が決めまして、後はもうそれに押し込められてしまふということがある。今でも続いているわけですよ。しかし、地方の大学もそれはそれなりに存立を認めてい

るわけだから地域に対しては非常に貢献しているし、もっと言えば国に貢献しているわけで、そういうものを本省が面倒をみないということだつたら、それにかわる組織として国大協を変えていくのが必要だと思つていますが。でも今のところそういうところまでとても行きそうにないですよ。だから、もうそれならば個々の大学の才覚でやらせてほしいわけで、変なわづらばをかけないでくれ、こう言いたくなるんですけどね。だから、なにか非常に中途半端ですね。いずれ改善されるとは思いますが、今のところはなかなか。

【中富】ここ

まで切り捨てられてくると、やっぱり地方分権というか、地域で独立してと言いたくなりますよ。

【学長】もう、そうしてくれと。昨日市長とそんな話をしたんです。岡山にあって、岡山大学が今さらのようになつてきたとわかつてきたというわけ



ですね。だから、それを、例えば地域で予算化して、もう県立大学が私立大学か、そういう形の話にしてくれた方がよっぽどいいわけですね、変に縛らない程度で。自由競争にしてくれたらいいと思うんです。でも、地方分権ということで思い出したんですが、例えば鳥取なんかはそんなことじゃだめだ、たまらないと言ったわけです。岡山県知事の石井さんと鳥取県知事の片山さんが地方で言い合っていて、鳥取はもうとにかく国の補助でやってくれというし、岡山の知事は、独立採算だというわけです。これは、やっぱり持っているバックラウンドの規模が違うから仕方ないんですけどね。どっちを選択するかは別にして、やっぱり何か責任を持たされるんだしたらそれだけの権限をくれるとか、ちゃんと合わせてくれないとできないですよ。そんな中で泳いでいかないといけない。しかも、結果だけは評価という形でやられるんですよ。

もの初めからかかないつこないわけですよ。どれだけの業績を上げてきたかというのと、先にどういう可能性があるかということの審査だと言っているんです。ただ、これだけのことを積み上げてきましたというところには、これだけのウエートをかけて、これからやりますということにどれだけウエートをかけているかわからないんですよ。それに、この人が出てくるんだつたらうちは勝つてこないかと、それはもうメンバー見たらわかりますよ。それで、現実そうなつていくとますますそこに金が集中していくというわけですね。そんなことを国がやっていて、本当にこれはもつのかなあと思いますよ。研究に関しては、もう極端にそうですね。運営交付金の1%カットと言っていますが、あれは結局本省が全部プールして競争資金に積み上げて吸い上げた金全部そこへ回っているわけですね。



から、これまで資本投下してもらったところはますます太つていくという、ここんどこですよ。こういうことの行き先を見ていると、大学を淘汰しようとしているか、大学の格付をしようとしているかと思えな

いですね。本省ははつきりそう言っているんです。

残すのは東京と京都と、せいぜい大阪か名古屋で、北海道、九州ももうだめだと言ってますね。

そんなに厳しい。また、国際的にみて少ない予算で国際競争をさせられないとも言ってます。

その中で、やっぱり岡山大学は絶対負け

てはいけません。東大のように世界のトップの研究機関になるというのは、これはちょっと言えないだろうと思いますが、そういうのが見えています。以上は、それに対して岡山大学も対応しないといけないわけですね。

学長としての抱負(3)

—大学院教育の改革・充実—

【学長】岡山大学の勝負するところは大学院教育だと僕は思っています。で、これまで日本でやってきた大学院というのは、やっぱり僕たち自身もそうだったけど、やっぱり徒弟制度なんですね。

【神原】理科系は大体そうですね。文系は知りませんが。

【中富】文系こそそうですね。

【学長】徒弟でしよう。とにかくその先輩について……。

【神原】先生の手足になって。

【学長】先生の手足になってどなられながらやってきて、そこでうまくのみ込んだやつは残っているし、だめなやつはもう……。全くそれでしたよね。そういうことがやっぱり日本では続いているわけです。このあいだある人と面白い話をしたんですが、学部卒の学力はアメリカに全然負けていないのに、2年なり5年なりいた大学院の修了学生を見たらこんなに差があるんですよ、先生考えてくださいよってね。

【神原】そんなに差があるんですか。【学長】全然違います。話になりません。もう圧倒的に向こうが勝っているわけです。これはやっぱり先生方がね、大学でちゃんと教育してないからですよってね。そんな、今の

制度ではちゃんと金をくれないじゃないかと云ったら、じゃあ要求してくださいよ、正当な要求だったらだしますよと言っんです、彼はね。

【中富】彼って誰ですか。

【学長】いや、本省の上の方ですよ。複数の人で、1人じゃないんです。

だから彼らのほうにも、金はつけてやっっているのに何でこうなんだという不満がずうつとあるんですね。今後は、やっぱり私たちが謙虚に聞くべきだと思います。大学院の教育というのはこれまでは徒弟であって、課程の教育としてやっつてこなかったんです。彼らはやっぱりそれが決定的に日本の大学で欠けてきたことだということ。逆に言えば、そこがね、私はこれから改革する大きなポイントだと思います。岡山大学は大学院がこれだけ整備してきましたし、これからもっと整備していくうとしていくわけですから、大学院大学化しようとしているわけですね。そういうこと自体はこれまでやってきた道ですから、今さらこれをもう一回つぶそうということにはならないし、進めたらいいと思っっているんですけど、大学院で何をするか、大学院教育の充実という、そのことを学生にわかるように本気でやらな

いとといけないと考えています。岡山大学の何とか研究科に入って何とか専攻に入れば、2年間なり5年間でさちつとここまですることはできると

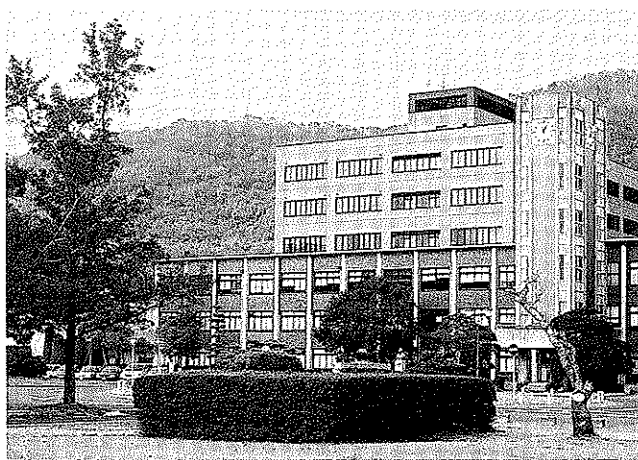
いう、その先生のお尻にくつついてやっつてなくても、とにかく一つのプロセスの中に入ればここまでできる、最低限ここまで行けるといって、そういうことをさちつと僕は出さないといいないだろうと思っいます。それともう一つは、大学院の教育のあり方ですね。旧帝大は、やっぱり相変わらず徒弟制度でやると思っんです。彼らは研究者養成というものが

【神原】それはあるでしょうね。

【学長】そっちの方にウエイトをかけるし、リクルート再生産機構ですから絶対それをやるだろうと思っいます。一方、もう少し

地方にある例えば香川とか、農学で言えば連合大学院しか組めないところもありますね。ああいう

クラスの大学では、自分たちが大学院教育をやるといってなかなかできないですよ。岡山大学は、そのちようど中間ですよ。しかも、総合大学院というのを、これまでは非常にやりにくいということ、厄介もん扱いして、なるべく実体化せず



きたわけです。でも考えたら改組の方法ではあれを使っつてやっつてしまし、むしろもう一回見直してあれを生かした形で、大学院教育というもの、岡山大学の方式というか、課程大学院というか、そういうものをさちつと構築すべきだと思っんです。そうすると、岡山大学なりの特色が出てくると思っんです。

もう一度見直して、それをベースにした上で、大学院の課程としての教育プロセスの確立というか、それを僕はさちつと出せれば、岡山大学の大きな政策の武器になるといって形が提案できると思っんです。それで、特に今は自然系とか生命系が、大学院大学なんです。学部教育をどうするかということも大きな問題なので、学部教育もそういう構想の中で考えるということにすればさちつとできるだろうと思っつて、そのことをしなないといけないと考えています。

学長としての抱負(4)

アカハラ問題への対処

【学長】今アカハラが、ここに来てにわかになくさん出てきているんですね。

【神原】ああ、そうですね。

【学長】物すごい。アカハラの行動を見ていると、結局、大学院で学生指導ができていない。学生さんの方は、ちゃんとその課程として教育してもらえないものと思っつていて、先生の方が弟子としてというか……。

【神原】その辺完全にすれ違っつて

【学長】丁稚(でっち)として使っつているわけですね。それで、ちょっとした感情の行き違いがあると、それが途端に強烈になっつてしまっつて、

アカハラはもう物すごい数ですよ。アカハラみたいなのが起こるといっているのは、大学としてそれは欠陥を露呈しているわけです。その大きな原因は、やっぱり学生さんたちが考えている大学と、先生方が考えている大学の教育の形態が違うということ、このままほっておくとますます大きくなる。

【神原】 そうでしょうね。

【学長】 先生はこのごろの学生は駄目だとか、手伝わせても言うことを聞かないとか言うし、学生さんは高い授業料を払って試験もして入れてくれたんだから、言われたことをちゃんとやっていたら修士なり博士はとれるはずだと思ってるわけですね。何でそんなにどつかれたりするんだと。

【神原】 うん、そりゃそうですけど。

【学長】 いや、僕もアカハラをいちいち取り上げてたら教育できないとって怒られるんですよ。だったらどう教育するんだって先生に怒られるんですよ。それもよくわかるけれど、でも、学生さんとか社会から見たとときに、やっぱりこの社会はちょっと遅れているのではないかと思えます。

【中富】 私もその点は非常に同意します。僕も大学院・学部連携教育作業部会というワーキンググループにいますのでいろいろやっていますけれど、なかなか大変です。やっぱり旧

帝大だと研究者になれるぞって言うて院生が呼べるんですよ。理系はいいのかもしれないけれど、文系になるとどうやってまず来てもらうかっていうのが、つまり出口論が見えてこないんですね。そこがはつきりすると、もう少しカリキュラムを立てようがあるのですが。

【学長】 このあいだ僕はその話をして、自然科学研究科の科長と、環境科学研究科長に、自然系はそういう形で抜本的に考え直してほしいということをお願いしたんですね。それで、科長連中もそれはその通りだ、是非そうしますと言っていました。そこでまず勉強会をしようということ、民間の方と、それから一宮高校の先生から話を聞いたところ、高校の先生がまず言ったのは、研究者志望の学生は岡山大学に行きませんよということでした。

【中富】 そうなんですよ。

【学長】 これは、当然旧帝大に初めから行きますよ、ということ、岡山は見えてない。そこがまず世間の相場なんですね。

【中富】 だから、一生懸命教育してやるとどっかに行ってしまう。

【学長】 そうですね。だと思えます。例えば学部から他の修士課程へ動いたり、博士課程から東大とかに行ってしまうわけですよ。そういう受け皿にはなっていないからというわけです。そうかといわゆる専門

技術者として出しているか、その教育をちゃんとしているかといえ、それは課程でやっていないから、丁稚でやりますから中途半端に終わりますね。何と何を習得していきすかと言われたら、なかなかはつきりとは答えられない。

【神原】 なるほど。

学長としての抱負(5)

――教員の分業体制の構築――

【学長】 こうしたミスマッチが起こるのはどうしてだろうと思つたんですが、そこんところをはつきりすればいいわけです。やっぱり僕は二通りに分けて考えなきゃいけないと思います。研究者養成ができる部分、それは岡山大学でも十分あると思います。岡山大学でも十分あると思えますが、やっぱりできるという先生は、半分とか3割とかそんなところでしょうけれど、その先生にはそういうことをやっていただく。学生も研究者を目標にきているわけですから、それは丁稚でやっていただければ結構で、そのコースを作ればいいでしょう。次に課程としてのカリキュラムについて言えば、これこれのことは当然実社会に出たときに身につけていますよ、社会でもそれで製品として売れるという、そういうことをはっきりしたものととしてのコースを作ればいいでしょう。だから、さっき出口論と言っていました



が、出口がはつきり見える形で入ってくる人たちには必ず示して、そのことができるぐらいのものは作っておかないといけないと思ってるんです。岡山大学は二つ作らないとだめだと思つています。今はどっちにもなっていないですね。先生について言えば、おれは研究者養成でいくとか、おれは専門技術者養成の教員だとか、それはもちろん入れかえありでいいと思っただけで、それぐらいのことをした方が、先生方も整理がつくかなあと思つたりしているんですよ。

【中富】 そうですね、教養もしつかりやらなきゃいかん、学部もやらなきゃいかん、大学院も、研究もと、やらなきゃいかんことはわかるんですけど、みんな全部しつかりやれと言われると、もっと機能的にできないかと思えますね。

【学長】 僕はずっと思っているんですが、何か例えば教育教員と研究教員という話をしますが、ああいう考え方も検討するべきじゃないかという気がしますねえ。

それと、教養の話が今出ましたけれども、大学の教養って本当に何な



のかということですね。余り皆さんの共通認識は持っていないだろうと。この間からよく出るのは、教養科目と称するものが非常に増えていると学部専門教育を圧迫しているとか、例えば非常勤のコマもそっちに使い過ぎていたりとか、いろんな財政的な話も出ます。さきほどの教育研究評議会の後の部局連絡会で、9月に、開発センターの主立った先生に来てもらって、彼らが考えている岡山大学の教養教育というのはこんなので、したがって、これぐらいのコマ数が要りますとか、これだけの授業やりますとかね、ダイレクトに、教育に責任持っている部局長の前で言ってしまうと言ったんです。

【神原】 ああ、そりゃそうです。

【学長】 そういう場を作ることにしました。今まではさっき言った学部の教務委員を通して動いているんですね。そうすると、聞いたの聞かないの、解釈も違うし、結局混乱だけが残ったんですが、ねらいはそういうことでの解消なんです。そもそも岡

山大学で教養教育と呼んでいるものを皆さんどう考えているかというところ、部局長の中でも違うだろうけれど、少ない人的、財政的な資本の中で動かしていくわけですから、効率よくやらないといけないわけです。それを是非やりたいと思っているんですが、その中で、先ほどの教養教育とか専門教育とか、大学院の教育も、その中身をさらに研究者養成なのか課程としてなのか。その辺はちょっと、整理していかないといけないと思っています。

【神原】 なるほど。

【学長】 何もかも一人の先生にあれもしろこれもしろというのは、もう無理だと思っただけです。その辺を先生方は、おれはもう教育一本でいくよとかということですね。

【神原】 それはしかし、なかなか言い出しにくいんで、結局みんな分担平等でいくわけです。

【学長】 でも、それでみんながパワーロスしているのはね、やっぱり学長が怒られるわけです。とにかく少しづつでもやっていかないといかんのかなあと思ってるんです。

【神原】 検討しないとイケないんでしようね。

【学長】 管理業務も多少少なくなってきたというけれど、結構、委員会もありますし、こんなにしんどくてはそうあれもこれもはできないですよ。ね。

【神原】 先生は公約といいますか、学長候補者と語る会でもそれは言われていましたから、別にそれを提起したからって公約違反でも何でもないですし。

【学長】 何か考えないといけないんじゃないかなと思います。これをどういう形態にするかは、またいずれ話し合っつて、先生方の意向も伺っつて、持っている力をどこに有効に使うかという方策を立てていかないとイケない。

【神原】 現にある人材を有効に使わないとね。

【学長】 いや、それはね。今若手や中堅の優秀な人がね、どんどん岡山から出ていつていっているんです。どこの学部でも言っているんですよ、困った困ったとね。これは、ちよつと悪い気が、非常に悪い気がする。僕は、法人化するときに、法人化なんか二つのことができれば絶対怖くない。

一つは、18歳の子が何人こつちへ向いてくれるか、岡山大学に何人門をたたいてくれるか。それと、もう一つが、若手の教員が何人留まってくれるか、あるいは更に来てくれるかと。もうそれさえできたら、法人化なんか何にも怖くないんだけど、それ二つともがいま危ないんですよ。

【神原】 いや、危ないですよ。

【学長】 入試では受験生がこつちを向いてくれないし、若い人がどんどん抜かれていくしね。非常に悪い傾

向になつていっている。もう心配になるんですね。

【神原】 それ一番問題ですね。

【学長】 もう問題なんです。それは、やっぱりデフレスパイラルです。つまり、始まりますとますます悪くなつてくるんですよ、どつかで止めとかないとね。あそこはだめだ、やっぱりだめだあと、そういうことなつてしまつたら、もうこれは大変なことになるんで、何とかして止めたいと思つていっているんですが、もう悪いことが始まつているのかなあと心配して居るわけです。だから先生方にもつと自信を持つてもらつて、パフォーマンスでいろいろなところでもつと自分を出してもらいたいですね。見ているとやっぱりうちはお公家さんが多いんですよ。

【神原】 そうなんですか。

【学長】 これは、余り定量的な話じゃないんですけど、例えば僕もいろんな中四国の県を超えた会議だとか、国の会議なんかで委員で出ていくと、時々岡山大学の先生が来ているんですね。だけど何にも言わないんですよ、広島先生なんかはそれは厚かましく言いますよ。もう、これは全然違うんですよ。

【神原】 どうしてでしょうかねえ。

【学長】 もう何でだろうと思つてね。よその大学の先生は、もうおまえは黙つとけ、しょうもないこと言うなというぐらいなことを平気で言いま

すけどね。やっぱり、岡山大学の先生はおとなしいというかね。これはどうも違うなあと感じます。

【中富】場なれしてないんでしょね。学生もそうです。優秀だけど、何か。

【学長】それも言われましたね。

【中富】プレゼンテーションできないと。

【学長】そう、何か就職のときに、岡大の学生は何であんなにおとなしいのかということ、それはもう産業界の人がいっぱい聞きますね。服装がどうだとか、しゃべることに悩む前に、まず物を言わないといつて、何であんなにおとなしいんだとみんなから言われますが、これはもうしょうがない。

【中富】学長のやり方でなんとかわえられますか。

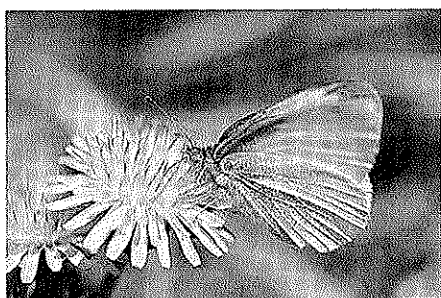
【学長】これは変えなきゃいかんわけで、先生方もいろんなところで、やっぱりそのことを意識して、ちょっとでも意識しつやつやっていたきたいなと思ってるんですね。その積み上げしかないわけですから、是非。あ、もう時間が、すみません。

【神原】もっと話聞きたいんですが、

【学長】じゃまた、あらためて機会をつくってください。

【中富】では、今日はこの辺で。是非、お体に気をつけていただきたいと思います。今日は、お忙しいなかをどうもありがとうございました。

「編集後記・昨年8月に開催した千葉新学長と組合との懇談会の内容を特集号としてお届けします。テープ起こしにはじまる様々な編集過程に手間どり今日まで遅れてしまいましたたことお詫びします。ただ、内容的には、今読んでいただいても充分新鮮な話題で、千葉新学長の抱負を知る上でも、貴重な懇談会であったと思います。お忙しいなかを懇談会にに応じていただいた学長には、あらためて感謝する次第です。(中富)



賃金が危ない！ 組合に入って、賃金引下げを止めさせましょう！

○賃金は労使交渉によって決まります

法人化により私たちの賃金は、労使交渉によって独自に決める仕組みとなり、人事院勧告の対象外となりました。また、文科省は岡大職組も加入している全国大学高専教職員組合（全大教）との会見で「人勧は運営費交付金に反映しない」（大要）と明言しています。05年度の賃金確定について全大教加盟のほとんどの大学組合が団体交渉を行い、基本的にすべての大学で「不利益遡及」（4月に遡って賃金を0.3%引き下げること）を止めさせました。岡山大学職員組合でも、大学執行部と団体交渉を行い、「不利益遡及」を止めさせることが出来ました。

組合員数が多いいくつかの大学では、05年度の給与引き下げをもストップすることに成功しています。しかし、残念ながら、岡山大学ではこの点では成果を挙げることが出来ませんでした。組合員数が多い大学組合で成果をあげていることを見れば、組合員数が多いことが要求実現の大きな力になることは明らかです。

○平均賃金4.8%引下げ、中高年層の給与7.0%引下げ（05年度人事院勧告）

しかも、05年度人事院勧告は、これまでの全国官民比較に基づく人事院勧告・給与表を、地域の民間賃金との比較のみとし、最も民間給与の低い地域に合わせて給与表を作成する方針を打ち出しています。また、昇給カーブをフラット化すると、中高年層の大幅賃下げをもくろんでいます。勧告によれば35歳以上の人に適用される給与表の部分がすべて引き下げられます（平均4.8%、最大では7.0%の賃下げ）。また、若年層ではすぐに影響がでないように見えても、引き下げられた賃金水準にしか到達できず、生涯賃金では1,500万円以上の引き下げになります。大学が人勧準拠で、こうした方針で賃下げをすすめる危険性は、たとえ今年1月からと一定の譲歩をしたとはいえ、05年度人勧に従って0.3%賃下げを断行したことからきわめて大きいと考えられます。

○大学が人事院勧告に準拠する根拠はまったくありません

しかしながら、大学が人事院勧告に準拠する根拠はまったくありません。こうした人勧準拠を無原則に適用することを止めさせる可能性は、組合員が多ければ多いほど大きくなることは間違いありません。皆さん、まだ組合に入っていない方は、賃下げを止めさせるためにぜひ組合に加入して下さい。組合員の方は、身近な教職員で未加入の方にぜひ組合加入を呼びかけてください。

組合に入って、賃金引下げを止めさせましょう！